



確かな学力の向上をめざして【11月】

■校内研究のさらなる充実に向けて

校内研究は、何のために行うのでしょうか。その必要性や効果、そして効果的な研究の進め方について考えてみましょう。そして、校内研究が「研究」になっているか改めて確認しましょう。



なぜ「校内研究」を行うのでしょうか。

1970年代、アメリカで、公立小学校において厳しい環境にありながらも高い学力を保障できている学校を「効果的な学校」と捉え、事例調査が行われました。なぜそう成り得ているかを追求した結果、「効果的な学校」には、ほぼ共通して次のような特徴が見い出されました。

- ① 児童生徒が学習に取り組みやすくするような学校の風土がある。
- ② 基礎的な技能をしっかり教えることを学校全体として重視している。
- ③ すべての児童生徒の学力達成に対して教職員集団が高い期待を抱いている。
- ④ 児童生徒の学力達成度の状況を把握・診断し、指導の目標を明確化している。
- ⑤ 強力で計画的なリーダーとして教授・学習活動に関与している校長の存在。

（浜田博文編集 『学校の組織力向上』実践レポート』より）

学校内部の組織や経営的な要因によって、児童生徒の学習の質に大きな違いが生み出されると言えます。



上記の要素のほとんどは、「校内研究」が目指しているものです。つまり、「校内研究」を充実させることで、**児童生徒に確かな学力を身に付けさせることができる**ということです。



校内研究を「研究」にするためには、「授業研究会」とその後が大切です。

各校の校内研究には、2～3回の「授業研究会」が位置付けられています。授業研究会の実施には、多大な時間と労力が必要です。それに見合う効果を上げるためには、授業研究会の在り方を確認し、校内研究とどのように結びついているかをあらためて検証することが必要です。

「校内研究」とは、児童生徒への働きかけ（授業）とその結果（児童生徒の姿）から、相関関係、因果関係を読み解き、新たな事実や事象を共通の知見として校内で共有し積み上げていくこと。

「授業研究会」は校内研究の要です。仮説をもとに積み上げてきた日々の取組の成果を「授業研究会」で示すことで、仮説を再検証し、次の（日々の）実践につなげることが重要です。



自校の校内研究をチェック！

- 学校の課題解決にむけて、児童生徒の実態を、客観的資料をもとに把握し、研究仮説を立てている。
- 授業研が仮説を検証するものであることを理解し、仮説を実証するプロセスとして実施している。
- 授業研で得られた知見を、全職員で共有するツールを持ち、共通理解し全学級で実施している。
- 研究の成果を見取る指標を設定し、客観的に評価している。

※チェック項目は一例です。各校で校内研究を検証するチェック項目を設け、振り返ってみることが大切です。

全国学力・学習状況調査を有効に活用しましょう。

校内研究を充実させるために2つの活用方法があります。

- 児童生徒の解答の状況から、課題を把握する。
 - 正答率だけでなく、誤答について解答類型を基に分析することで、児童生徒の実態が客観的に把握できます。
- 問題を分析し、授業改善の方向性を探る。
 - 問題を分析することで、求められている学力や、授業改善のポイントを把握することができます。



Point

2学期後半は、校内研究が盛んに行われる時期であるとともに、来年度に向けて校内の課題をリサーチする時期でもあります。現在の校内研究の進捗状況を確認し、授業改善に向けての効果的な取組になっているか検証しましょう。